

| | | | | | |
|---|--|---------------------------------|---------------------------------|--|---------------------------------|
| 阿南工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和03年度 (2021年度) | 授業科目 | 法学 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 1194611 | | 科目区分 | 一般 / 選択 | |
| 授業形態 | 授業 | | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 2 | |
| 開設学科 | 一般教養 | | 対象学年 | 4 | |
| 開設期 | 通年 | | 週時間数 | 2 | |
| 教科書/教材 | ガイドブック法学 (嵯峨野書院) | | | | |
| 担当教員 | 今田 浩之 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| 1. 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本について説明できる。 2. 憲法の基本的人権論、司法審査理論について説明できる。 3. 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 最低限の到達レベル (可) |
| 到達目標1 | 法規範の特質分析や法分類の意義、裁判手続における立証責任の意義について説明できる。 | | 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の概要について説明できる。 | | 法規範の特質、法分類、裁判手続の基本の要点について説明できる。 |
| 到達目標2 | 憲法の基本的人権に関する判例の意義と課題を説明できる。 | | 憲法の基本的人権論、司法審査理論について概要を説明できる。 | | 憲法の基本的人権論、司法審査理論の要点について説明できる。 |
| 到達目標3 | 民法、刑法などの原理・制度・運用について説明できる。 | | 民法、刑法などの原理・制度の概要について説明できる。 | | 民法、刑法などの原理・制度の要点について説明できる。 |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | この科目では、具体的な法文や訴訟判例を素材に、現行法の制度・運用について検討し、各自が法的思考能力を身に付けることを目標とする。 | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 授業では、まず、「法学基礎論」で法学の基礎的知識や方法論を学び、次に「法学各論」で各法分野につき、制度や運用に関する具体的な法文や訴訟判例の検討を通じて、法的思考方法を習得する。 | | | | |
| 注意点 | 日常的に、様々な現実社会の問題について、法的観点から考えてみるようにして下さい。 新しい立法や裁判の動向、権利や自由に関する時事的な話題にも積極的に目を向けましょう。 参考書：法学入門 [有斐閣] | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | 法とは何か | 社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。 | |
| | | 2週 | 法とは何か | 社会規範としての法の特質、法の諸分類について説明できる。 | |
| | | 3週 | 法の解釈 | 法の解釈技術について説明できる。 | |
| | | 4週 | 法の解釈 | 法の解釈技術について説明できる。 | |
| | | 5週 | 法の解釈 | 法の解釈技術について説明できる。 | |
| | | 6週 | 裁判の構造 | 裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。 | |
| | | 7週 | 裁判の構造 | 裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。 | |
| | | 8週 | 裁判の構造 | 裁判手続の基本的構造、立証責任について説明できる。 | |
| | 2ndQ | 9週 | 憲法の基本的人権保障 | 基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。 | |
| | | 10週 | 憲法の基本的人権保障 | 基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。 | |
| | | 11週 | 憲法の基本的人権保障 | 基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。 | |
| | | 12週 | 憲法の基本的人権保障 | 基本的人権、司法審査制、二重の基準論について説明できる。 | |
| | | 13週 | 民法 | 債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。 | |
| | | 14週 | 民法 | 債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。 | |
| | | 15週 | 民法 | 債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。 | |
| | | 16週 | 期末試験答案返却 | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | 民法 | 債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。 | |
| | | 2週 | 民法 | 債権、契約、不法行為、物権などについて説明できる。 | |
| | | 3週 | 消費者保護法 | 特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。 | |
| | | 4週 | 消費者保護法 | 特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。 | |

| | | | |
|------|-----|----------|------------------------------|
| 4thQ | 5週 | 消費者保護法 | 特定商取引法、消費者契約法などについて説明できる。 |
| | 6週 | 製造物責任法 | 製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。 |
| | 7週 | 製造物責任法 | 製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。 |
| | 8週 | 製造物責任法 | 製造物、製造業者、欠陥責任などについて説明できる。 |
| | 9週 | 刑法 | 罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。 |
| | 10週 | 刑法 | 罪刑法定主義、犯罪成立要件、刑罰などについて説明できる。 |
| | 11週 | 刑法 | 適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。 |
| | 12週 | 刑事訴訟法 | 適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。 |
| | 13週 | 刑事訴訟法 | 適正手続原則、刑事手続の全体構造などについて説明できる。 |
| | 14週 | 労働法 | 労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。 |
| | 15週 | 労働法 | 労働基準法、男女雇用機会均等法などについて説明できる。 |
| | 16週 | 期末試験答案返却 | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|-------|---------|------|-----------|--|-----|
| 基礎的能力 | 人文・社会科学 | 社会 | 公民的分野 | 自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。 | 3 |

評価割合

| | 定期試験 | 小テスト | ポートフォリオ | 発表・取り組み姿勢 | その他 | 合計 |
|---------|------|------|---------|-----------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 70 | 0 | 30 | 0 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 60 | 0 | 20 | 0 | 0 | 80 |
| 専門的能力 | 10 | 0 | 10 | 0 | 0 | 20 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |